

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 藤岡市立日野小学校  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中高一貫）  
所在地 〒375-0045  
群馬県藤岡市金井658  
E-mail [hino-es@fujiooka-school.gunma.jp](mailto:hino-es@fujiooka-school.gunma.jp)  
Website <http://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1010009>  
幼児児童生徒数 男子 12 名 女子 11 名 合計 23 名  
幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

## 3. 活動内容

### (1) 活動の概要

本校は、環境教育の目標を「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」として、ESDを「持続可能な発展のための教育（人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと）（他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと）」と捉え、ESDの活動してきた。特色としては、草花・野菜の栽培活動やヤマメの飼育活動を通して、生命や自然を大切にする態度を養うとともに、省エネ活動やホタルの里づくりへの協力を通して、地域に働きかける活動を推進することにより環境保全に寄与する態度を養うことである。また、自然災害を防ぎ、人々の暮らしを支える森林の大切さを知り、森林の多い日野地区に誇りと愛着をもってほしいというねらいから、森林環境学習も昨年度より行っている。

### ① 稚鮎の放流と河川清掃・クリーン作戦（地域清掃）に係わる活動

藤岡市観光課・烏川漁協の協力を得て、稚鮎を地域の鮎川3カ所で放流している。その後、鮎の住みやすい環境作りのため、河川清掃を実施し、「小さな命をいたわる心」「自然・地域を愛する心」「豊かな自然を有する故郷を誇りに思う心」を育成している。

## ② サルビアの苗・パンジーの苗の配布（花の宅急便）に係わる活動

学校で育てた花苗を関係施設・高齢者に届ける活動を通して、教育活動への支援施設や地域の高齢者への「感謝の心」と「敬う心」を育成している。

## ③ ヤマメのふ化・飼育、放流に係わる学習

ヤマメの卵を県水産試験場から譲り受け、全校児童で水槽を担当し、ふ化・飼育、放流までを行うことで、協力・自主性・責任感や小さな命をいたわる心、自然を愛する心を育成し、地域の鮎川を生命豊かな川に戻すため、毎年行っている。

## ④ 森林環境に係わる学習

地域の方に提供していただいた森林を体験場所として、多野東部森林組合、藤岡森林事務所の方を講師に迎え、森林の働きや森林作業の必要性について教えてもらい、間伐体験を行った。また、間伐材を材料にした木製三段ラック作りに挑戦したり、原木を使ったシイタケ栽培のための植菌体験も行ったりしている。



① の写真（河川清掃）



② の写真（花苗の贈呈）



③ の写真（ヤマメの放流）



④ の写真（間伐体験）

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

○環境に関する書物全般（群馬県環境政策課：ストップ温暖化） （群馬県環境政策課：ごみとリサイクル、今野生動物が危ない） （岩田進午 他著：これでわかる生ゴミ堆肥化Q&A）
○動植物に関する書物全般（ひろしま自然の会、守屋節夫著：ホタルの舞飛ぶ里づくり） （東京ゲンジポータル研究所著：ホタル百科）

### ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

環境教育の目標「生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと」を、学校全体の教育構想の中に位置付け、全ての教育活動で意識化を図るとともに、各教科と関連付け年かを通して活動できるような教育課程を工夫した。

教科等の授業時間確保の観点から、業前活動や休み時間等の時間を利用して、子どもたちが主体的に取り組めるよう工夫を図ってきた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

子どもたちの活動については、縦割り班を作り活動できるようにすることで、全校児童が一緒に取り組めるようにしてきた。

教職員については、職員会議等を利用し、活動の目的や内容等共通理解を図れるようにすることで、組織的な取組をできるようにしてきた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

※チェック事項 1-5 に対応

活動終了毎に、教職員による振り返りを行い、成果と課題を明確にし、次年度の活動につなげるようにしてきた。同様に、子どもたちにおいても、活動の終了時には、振り返りの場を設け、学んだこと明確にできるようにしてきた。

成果については、環境保全に対する意識を高めることができた。

課題については、学んだことを日頃の生活の中と結び付けていく点で弱さが見られた。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

※チェック事項 2-2 に対応

ホームページで子どもたちの活動の様子を細かく載せているので、保護者・地域への情報発信ができています。

保護者・地域へ学校で行っている ESD の活動を理解してもらい、協力できる場所は協働してもらっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）

※チェック事項 2-3 に対応

本校は、コミュニティースクールとなることを目指しており、地域の方々の声を生かした学校運営に努めている。今後も、地域とともにある学校づくりを目指し取り組んでいきたい。

地域の各種団体（森林組合・漁業組合・公民館・消防団・敬老会・体育協会・交通安全協会等）と協働で、学校行事を実施している。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

※チェック事項 2-4 に対応

市内の各ユネスコスクールと交流を図っている。特に、中学校区の四校では情報を共有し、交流を進めてきている。

それ以外のユネスコスクールとの交流は進んでおらず、今後の課題である。今後は、先進的な取組等を行っているユネスコスクールの取組を参考に、改善を図っていきたい。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

目標「生命を尊び：、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと」

子ども・教職員・家庭すべてで、

○生命を尊び：いじめ防止への意識が高まった。

○自然を大切にし環境の保全に寄与：環境保護への理解が深まった。

(3) 平成 30 年度の活動計画

- 5月 サルビアの花壇への定植を行う。(全校児童)  
稚鮎の放流・河川清掃を行う。(全校児童)
- 6月 サフィニアのプランターへの定植を行う。(全校児童)  
ホタル祭りへの参加。
- 7月 地域清掃・除草作業。(全校児童)  
サルビアの苗を関係施設へ配布、及び地域住民へ配布する。(6年生)  
地域ホタル祭りへの参加(全校児童)
- 8月 地域清掃・除草作業。(全校児童)
- 9月 敬老会員への花のプレゼント(1～5年生)
- 11月 パンジーの定植(全校児童)  
ヤマメの卵から稚魚になるまでの世話・観察(全校児童)
- 3月 ヤマメの放流(6年生)
- 年間 自然エネルギーを利用した水槽の管理(5・6年生)